

## 経営懇話会 委員の質疑やコメント

### (1) 議事1「令和4年度決算概要」

- 水道用水供給事業は電気料金の高騰が原因で赤字とのことだが、昨今の電気料金の高騰は不可抗力だと考える。コスト削減を図っても吸収できないくらいのエネルギー価格の高騰については、水道料金に転嫁する仕組みを検討していく必要がある。
- 自助努力は当然必要だが、値上げに対する関係者の理解はかなり進んできたのではないかと考える。内容をよく精査し、できるだけ簡潔に早く値上げの意向を説明するタイミングではないか。

### (2) 議事2「第5次企業局経営5か年計画」の概要 及び 議事3「第5次企業局経営5か年計画」の進捗状況の評価

- 水道用水供給事業について、将来的な人口の減少を考えると、施設の再編や撤廃ということが必要になってくると考える。そのためにどういう予測や考えに基づいて行っていくのか
  - 将来の人口予測に基づき必要な水量を想定し、さらに受水団体の地下水等の水源の活用といった側面も踏まえ施設の整備を考えている。
  - 将来的に人口が減ってくることから、今までのやり方ではなく、スマート化やDX化など、別の方法も検討していかなければならない。
- 水道用水供給事業の実績に広報動画の作成とあるが、どのような動画を作成したのか。
  - 水管橋見学会の様子、水の濁りを取る実験動画、事業内容を分かりやすく説明した動画の3つを作成し、埼玉県庁のアカウントでYouTubeに掲載している。  
その他、広報活動として水管橋見学会や県民の日のイベントでパネル展示を行い、埼玉県企業局が水の卸売りをしていることや、今後の施設整備や高度浄水処理の導入について県民に広報している。
- 地域整備事業の目標に各団地の収支の黒字化とあるが、団地によっては赤字のところもあったのか。また、どのような傾向があるのか。
  - 基本的には各団地事業を開始するときには黒字になるように計画しているが、その後、事業中に不測の事態が生じ、費用が思った以上に嵩み、結果的に赤字に

なった地区もある。

- 傾向としては、県北地域はなかなか大きな利益が出にくい環境である一方で、圏央道より南の地域は大きな利益が出やすい環境である。県の均衡ある発展に資する形で開発を進めていきたいと考えている。
- 様々な事業を実施している会社が経営を考えるとときには、事業全体として利益を集計した結果が黒字であれば、経営は成功していると考えている。
- 水道用水供給事業の決算概要から、料金改定は避けられない状況だと思うが、用水供給事業者が料金改定をすると、受水団体に影響すると考える。受水団体の料金改定についてどのように考えているのか。
- 受水団体によって企業局からの購入量の割合や、料金改定の経緯や状況は様々である。その中で、今後の料金改定を目指して受水団体の意見を聞きながら検討していきたいと考えている。
- 将来の経営を考えるには、長期的に人口が減少していくことを覚悟し、この5年間でその先を見据えることが重要である。これから人口減少の度合いはますます上がり、長期化することからこの5年間は重要である。特に、水道事業や工業用水道事業のように設備投資が非常に大きく、一度作った土木構造物は50年、100年もつと言われる中で、今を最適化するために投資したものが、将来余剰化していくことを予想しながら事業展開をしていかなければいけない。  
次に、市町村と県の水道事業の役割を考えて、県内全体にある水周りの資産を、全体として最適化していくことを考える必要がある。
- 広報については、県内の各市町の住民をエンドユーザーとして捉え、企業局との関わり方を踏まえながらアプローチするとよいと考える。
- ITやDXについては、これまでは事業効率性、コストダウンのために採用してきたと思う。しかし、今後働き手が減っていくことを考えると、人間でなければならぬところがどこなのかを考えて、それ以外の部分についてはコストを度外視してでもシステムに変えていく検討をして、今のうちから実験的にでも進めていく必要があると考える。
- 近年は、天候に左右されるリスクが非常に高くなってきている。産業団地の事業を行う場合には企業局が責任をもって、浸水対策等のリスクヘッジをした方がよいと考える。